

広島派遣研修を振り返って

能生中学校 2年2組 塚田 琉央

今回、被爆地ヒロシマに行って、改めて「平和」とは何か、そしてどうすれば「平和」になるのかを考えることができました。

1日目の被爆体験講話では、被爆二世の講師の多賀さんが「私たちは原爆が投下されたとき、生まれていないけど、被爆者の方たちの経験を伝えていくことが大切である。」と何度もおっしゃられており、被爆者の高齢化が進んで、当時の光景を知る人も少なくなっていると知りました。だから、あの時のヒロシマを僕たちが次代へ伝えていくことが大切だと思いました。

2日目の平和記念式典にはさまざまな国の人がありました。世界平和は日本だけでは達成することはできないと思います。世界平和のためには世界中の人たちが、戦争の恐ろしさを知り、平和の尊さを感じる事が大事だと思います。こども代表の平和への誓いにあった「ヒロシマを共に学び、感じましょう。」という言葉にとても共感しました。その後、呉市の大和ミュージアムに行きました。戦時中の呉市のことや戦艦「大和」の構造、スケールの大きさを知ることができました。その中でも人間魚雷に搭乗した人の、家族に送る音声メッセージはとても胸が苦しくなりました。夜のとうろう流しには「平和をつくる」などと書いて流しました。たくさんのカラフルなとうろうは感動的でした。

そして僕が一番心に残った3日目です。まず平和記念資料館に行きました。原爆投下前の家がたくさんあるヒロシマの写真、隣には原爆投下後の同じ場所からの写真があり、家は1軒もなくなっていました。その他にも、8時15分で止

まっている時計や原爆の熱線の影響で座っていた人のかたちが残っている階段など衝撃のものばかりでした。この日原爆ドームを間近で見ました。これまで写真や映像で何度も見たことがありましたが、実際目の前にすると外観だけでなく、中にも瓦礫が散乱していると分かりました。これもとても衝撃的でした。

僕は今回の広島派遣研修を通して「平和」は自分が行動しないとできないと思いました。多賀さんも紹介されていた「平和は言うことではなく、行うこと。」この言葉のように、自分たちが平和のためにできることを考え、行動していきたいと思います。

そして二度とこのような悲惨なことがないように、これからも楽しく暮らせるように、平和の大切さを伝え、繋げていきたいです。
